

# 令和3年度 学校評価シート<最終報告>

●7月：第1回児童アンケートと教職員アンケート実施

●1月：第2回児童アンケートと教職員アンケート実施。保護者アンケート実施 これらの結果を考察して以下にまとめました。

\*評価：A：「十分に達成された」、B：「おおむね達成された」、C：「やや達成されなかった」、D：「達成されなかった」を表しています。

上田市立西小学校

学校教育目標・めざす児童の姿	今年度の重点目標	評価	成果と課題	改善策・向上策
進んで学び  豊かな心をもって  たくましく生きる子  <めざす姿> 自ら気づき 友と考え のびのびと表現する子ども	○かしこく《学力向上》 問いをもち 友と関わりながら 追究する子	A	・各教科で感染対策をしながら、友と課題を共有し、追究を進める授業ができた。 ・ICTを活用した学習活動により、新たな友との関わり姿が見られるようになった。	・本年度「GIGA スクール構想」により、一人一台端末が導入された。ICTの活用方法については、さらに研修を深め、学力向上に向けて、有効に活用していきたい。
	○やさしく《関係力向上》 相手のことを考えて 行動できる子	A	・総合的な学習の時間では、高齢者の方に寄り添った学習を進めることができた。 ・児童会活動として、相手の気持ちを考えた言葉「ふわふわ言葉」を増やす取り組みが、年間を通してできた。	・コロナ禍にあり、子ども同士の交流や異年齢での交流の場が減ってきている。西小の伝統でもある、児童会活動や「西小アドベンチャー」での交流の場を、工夫しながら続けていけるようにしたい。
	○たくましく《体力向上》 心身ともに健康で 粘り強く取り組む子	B	・コロナ禍による運動不足の影響が大きく、子どもたちの体力低下を感じる。 ・「身体みがき運動」を継続して取り組むことができた。しかし、十分な成果が得られたとは言えない。	・全校運動や「みがきタイム」を有効に活用し、体力の向上を図りたい。 ・わずかな時間でも、継続して運動に取り組んでいくことを大切にしたい。

領域	対象	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題	改善策・向上策
教育	教育課程	◇運動(身体みがき),ドリル(頭みがき),表現(声みがき),人権(心みがき)の実践と評価	日課の中に位置づけ,実態に応じた内容で全校で実施し,伸びを評価できたか	B	・朝の会に「身体みがき」を位置づけて、継続した取り組みができた。しかし、その効果を実感することは難しかった。 ・「みがきタイム」の内容、取り組み方の改善が必要。	・「身体みがき」では、子どもたちが効果や伸びを実感できるような運動に取り組みせたい。例えば、なわとびや走る運動を取り入れていきたい。 ・「身体みがき」の時間も確保しつつ、全校運動で、まとまった時間を作って、体力の向上を図りたい。 ・「頭みがき」では、クロームブックを活用したドリル学習についても準備を進めていきたい。
		◇特別支援教育の考え方と手法を取り入れた指導	掲示,発問,環境の工夫,個別の指導計画の活用,学校内外との連携により個に応じた指導が行えたか	A	・校内では特別支援学級担当者と情報交換しながら、一人一人に合わせた指導を行うことができた。 ・定期的に関係職員での支援会議を開いたり、スクールカウンセラーの先生と保護者との面談を計画したり、学校内外との連携を取ることができた。	・コロナ禍という状況もあり、保護者が学校に来る機会が減っている。困り感を持っている児童たちへの支援という観点からも、オンラインの活用等、学校と家庭の連携を大切にしたい指導を工夫していく必要があると思われる。
	学習指導	◇基礎学力の定着と活用・表現力の向上	基礎を繰り返す「頭みがき」を中心にしながら基礎学力の定着が図れたか	A	・算数の授業で必要な基礎的な計算を、「頭みがき」の時間を使って繰り返し練習した。そのため、授業で計算に困る児童が少なくなった。 ・ドリル学習では、紙ベースだけでなく、クロームブックの活用も考えていきたい。	・取り組んだ成果を確認する上でも、定期的にミニテストを行い、学力を検証する必要があると思われる。
		繰り返しの「声みがき」を中心としながら、自己表現力の向上を図れたか	B	・人前で言葉を発することで、自分の気持ちを話す自信へとつながった児童もいた。	・成果として、自己表現力につながった実践例を校内でも情報交換して共有し、各学級での取り組みに生かしていきたい。	

		読書の積み重ねや読み聞かせを通して、本に親しむ子どもの姿が見られたか	A	・読書や読み聞かせの時間を楽しみにしていた。子どもたち同士で本の紹介をし合う姿が出てきた。	・コロナ禍のため難しさはあるが、読書に関するよい取り組みや成果については全校児童に伝え、学校として本に親しむ雰囲気を高めていきたい。
		家庭学習ノート「紡ぐ」を活用し、家庭学習の習慣を身につけることができたか	B	・家庭学習の習慣は付いた。しかし、「紡ぐ」の効果とは言い難い面がある。毎日、宿題の評価と確認を実施してきた成果だと思われる。	・家庭学習の取り組みと「紡ぐ」活用の効果は、あまり関係性が感じられないという様子がある。評価観点として適切か、今後検討していきたい。
生活指導	◇あいさつと交流による敬意に基づく集団の形成	あいさつ運動や異年齢との交流、西小アドベンチャーなどを通して、子ども同士の繋がりを深めることができたか	A	・コロナ禍という制約はあったが、異年齢での交流の機会を作ることができた。低学年は、高学年に優しく接してもらい、慕う姿や笑顔が見られた。 ・児童会活動として、あいさつ隊が各クラスを回ってあいさつ運動をすることができた。	・コロナ禍のため難しい状況ではあるが、児童会活動として伝統ある「ハイタッチあいさつ」に代わる企画を考え、工夫して取り組んでいきたい。
	◇心と身体みがき	「身体みがき運動」や5分間走、外遊びと縄跳びの奨励を中心に身体の健康の維持や体力の向上を図れたか	B	・体育の時間は毎時間5分間走に取り組み、体力の向上に取り組むことができたクラスもある。 ・体育の単位によっては、5分間走に取り組んでいる時間がなく、すぐに授業内容に入りたい時がある。取り組めた時と、そうでない時があった。	・クラスや体育の単位によって、取り組み方に差が出てしまった。取り組み方について、校内で共通理解をして指導していきたい。
		ペア学級など異年齢との交流や道徳教育を通して、周りの人のことを考えようとする気持ちや人権感覚を高められたか	A	・コロナ禍ではあったが、なかよしペア学年との交流ができた。特に「西小アドベンチャー」では、1時間しっかり関わることができて、よい時間となった。	・「クラスみがき」の時間を活用して、短時間でもいいから、継続的に交流活動に取り組んでいくことも考えていきたい。
学校運営	地域との連携	◇地域の素材・人材を活用した教育活動 ◇信州型コミュニティスクールの推進と学校支援ボランティア活動	B	・感染対策をしながら、可能な限り地域の方と触れ合う学習活動ができた。 ・5年生は米作りの学習を通して、アドバイザーやボランティアの方々と関わりながら、学習を進め、また地域の方と連携しながら、地域素材である蚕の学習をすることができた。 ・6年生は、地域素材の学習や地域の方々との関わりが十分できなかった。 ・コロナ禍ということもあり、計画していた支援ボランティアの皆さんとの関わりが減ってしまい、残念だった。	・身近にある地域素材にさらに目を向け、試行錯誤しながら学習していく過程を大切に考えたい。 ・学年により地域との関わりに差があるので、コロナ禍ではあるが、どの学年も関わりが持てるような学習を工夫していきたい。
	研修	◇学習指導の充実や児童理解を深めるための研修や地域保護者との信頼を深めるための研修	A	・コロナ禍のため、校外へ出での研修がなかなかできなかった。その代わりにオンラインでの研修が増えて、成果もあった。 ・児童理解の研修では、個別支援のための共通理解ができた。 ・校内研修では「授業を語る会」（1学期）で、先生方の日頃の授業改善を共有することができた。 ・会議や係の業務に追われ、教材研究の時間が十分に確保できていない。	・「授業を語る会」が2学期にできなかった。年2回は実施するように年間計画に位置づけたい。 ・ICT活用の校内研修を行い、クラスによって一人一台端末の利用に差が生じないようにしていきたい。 ・校務の能率化、校務分掌の見直しにより、時間外勤務を削減し、教材研究の時間確保に努める。